

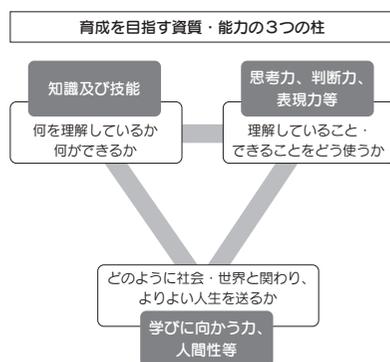
♪ 授業の「学ばせ方改革スタート」



- 何を教えるのか → どのように学ばせるのか
- 3名から多様な「学ばせ方」を提案

本書を書き進めるにあたって、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編を手掛かりの一つにしました。今回の指導要領では、教育観の転換がうたわれています。それは、「何を教えるのか」から「どのように学ばせるのか」への転換です。これまでの私自身の経験や授業を振り返ると、「〇〇を教えると歌が上手になる」、「〇〇という曲を教えよう」というように、どうしても授業での主体が教師になることがありました。もちろん、いずれも子ども達に向けて力を注いでいることには変わりはないのですが、果たして、「どの子も、そしてどの先生も楽しめているのか」と尋ねられたなら、即座に「ハイ！」と答えられる自信はありません。

指導要領については、後で取り上げることにしますが、私が今回の指導要領にキャッチコピーを付けるとすると、「学ばせ方改革の指導要領」です。示されている4つの活動に大きな変更はないのですが、**3つの資質・能力ベース**で内容が整理されていることが大きな特徴です。そして、活動に大きな変更がない分、様々な学ばせ方が記されています。3つの資質・能力は、先生方もご存知の通り、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」です。これら3つの資質・能力を歌唱の授業においてもバランスよく育てていくことが求められています。



『うた授業』では、「どの子も、どの先生も楽しめるように」、そして、指導要領をベースにして、私たち3名からの多様な「学ばせ方」を提案していくことにします。結果ではなく、学びの過程を重視した「うた授業」。

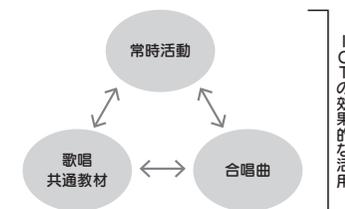
どうか、最後まで、お付き合いをよろしくお願いいたします。

※本書タイトルには「学び方」と子ども目線で示していますが、ここからは、教師の視点から授業づくりを考えるうえでも、あえて「学ばせ方」という表記にしております。

♪ 『うた授業』の3つの柱

本書は我々3名の考えと指導要領を手掛かりにして、3つの柱で構成しています。

- (1) 常時活動
- (2) 歌唱共通教材／合唱曲
- (3) ICTの効果的な活用



もし、3つの柱の「どこに力を入れたのですか」と尋ねられたら、「3つ全てです」と答えます。先ほど指導要領のキャッチコピーを「学ばせ方改革の指導要領」と述べましたが、これら3つの柱は、歌唱の授業での学ばせ方の改革をするうえでは欠かせません。また、「どの子も、どの先生も楽しめるように」という視点で考えても、3つの柱が関連し合うことで、その実現性が見えてきます。

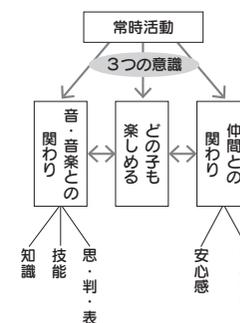
また3つの柱を立てたのには、他にも理由があります。それは、「子ども達、そして先生方と歌唱の授業との接点を増やす」「歌唱の授業への入口を多様に設ける」、ということです。ですから、3つの柱を同時に読み進めるのではなく、先生方が興味をもった柱から読み進める、あるいは苦手なもの、遠ざけていたものに目を向けるのもいいでしょう。ピアノが苦手でも「ICT活用なら任せて」という先生であれば、それを入口にして、ぜひ『うた授業』へとお入りください。

(1) 常時活動について



- 音、音楽、仲間との関わりを意識すること
- 心を解放して、安心感をもたせること

最近、「常時活動」という言葉が一般的になってきました。常時活動の明確な定義はありませんが、授業の冒頭や終わりに5～10分程度の時間で、継続的に音楽の力を積み重ねていくような活動と捉えています。今月の歌を歌ったり、リズム遊びをしたり、音楽ゲームをしたりと、様々な活動のバリエーションが考えられます。この常時活動で意識したいことは、「音、音楽、そして仲間との関わり」です。特に常時活動では、教師が一方向的に指導するのではなく、子どもと音、音楽、そして仲間との関わりを意識しながら、活動を支えていくことが大切です。



この『うた授業』では、11の常時活動を紹介しています。歌唱のいわゆる「知識及び技能」に結び付くような内容もありますし、子どもが歌の授業を楽しめるような、ある意味「学びに向かう力、人間性等」を強く意識した内容もあります。また、歌の授業を楽しめるようにするために、音楽を形づくっている要素との関わりも忘れずに取り入れています。「この常時活動、本当に歌唱の授業につながるの？」という疑問をもたれるかもしれませんが、先生方も子ども達と一緒に楽しみながら活動に取り組んでみてください。

1 拍目を見つけて

使用曲 『きらきら星』（フランス民謡）

所要時間 3分
対象学年 全学年
活動アイデア マコ先生

大切にしたい学びせ方

よりどころにする要素や仕組み

拍に合わせて手を動かす活動を通して1拍目に気付く

速度、拍

おすすめポイント

音楽の1拍目で手を動かすというシンプルな活動です。最初から音楽を用いて活動するのではなく、まずは先生が唱える拍に合わせて手を上げたり下げたりしていきます。「拍とピタリコ1」（常時活動6）では1拍の意識を大切にしていますが、この「1拍目を見つけて」では4拍分の拍の流れを意識していきます。手を動かすのは1拍目ですが、1～4拍の間、手を上げたまま、下げたまましておくので、体のどこかで拍の流れを感じていることでしょう。拍子や速度が変わったり、様々なジャンルの曲がきても1拍目を感じ取ったり、聴き取ったりできるような力や拍感を育てていきましょう。

活動の内容

STEP 1 1拍目で手を上げたり下げたりする



先生が「1、2、3、4、1、2、3、4」と繰り返し言うので、1拍目になったら手を上げて、次の1拍目になったら手を下げてください。これを繰り返していきますよ。

全員で練習



ポイントや教師の動きかけ

- 1拍目が伝わりやすいように、特に1拍目を強調して言う。
- 1拍目だけでなくすぐに手を下げてしまう子もいるので、1～4拍の間は手を上げているように伝える。

STEP 2 音楽に合わせて手を上げたり下げたりする



音楽に合わせて手を上げていきましょう。曲の最初から手を上げるのが難しい場合は、途中からでもいいですよ。

- 曲に合わせて手を上げることが難しい子がいる場合は、STEP 1の活動のように教師が「1、2、3、4」と拍を伝えるとよい。

全員で活動



- 教師が伴奏をするときは、速度を変化させると、さらに楽しみながら活動することができます。

STEP 3 音楽に変化を加えながら手を上げたり下げたりする



次は、音楽の伴奏が途中で止まったり、途中から流れたりするかもしれません。すぐに1拍目を見付けることができるでしょうか。

全員で活動



実際の活動の様子がご覧いただけます

- 音楽を途中で止める、途中から始めるなどの変化を加えることで、音楽を丁寧に聴こうとする態度を引き出すことができる。

アレンジ例

1

4拍子以外の拍子で挑戦する

4拍子での活動を行った後に、サプライズとして、これまでに親しんできた3拍子の曲を先生が伴奏したり、音源を流したりしてみましょう。最初は1拍目をうまく聴き取れないかもしれませんが、3拍子の音楽に慣れてくると、全員の手の動きも合うようになります。

アレンジ例

2

全員で手をつなぎながら活動する

「1拍目を見つけて」では1人ずつ手を上げたり下げたりする活動を設定していますが、全員で円になって手をつなぎながら活動することもできます。すぐに1拍目を聴き取れた子が手を上げることで、手をつないでいる周りの子も1拍目に気付くことができるようになります。そして、手を上げ下げするタイミングも、次第に全体でそろえるようになるでしょう。

『ふじ山』

(文部省唱歌／巖谷小波 作詞)

対象学年 3年生
授業アイデア ジロ先生

大切にしたい学ばせ方

歌詞や旋律を手掛かりにして、体を動かしながら「一番力強く歌いたところ」を考える

おすすめポイント

『ふじ山』は、旋律の特徴や歌詞との関わりを意識して学び進めていくにはぴったりの楽曲です。例えば、歌詞だけを頼りにして「一番力強く歌いたところは？」と尋ねたなら、多くの子が「ふじは日本一の山」と答えるでしょう。今回は歌詞だけでなく、旋律の特徴にも目を向けて、「一番力強く歌いたところ」を探していきます。最初は楽譜を手掛かりにして、旋律の上がり下がり気配に気付かせていきます。また友達と体を動かす活動を通してさらに学びを深めていきます。「一番力強く歌いたところ」だけでなく、「だんだん盛り上げて歌いたい」「最後は落ち着いた感じで終わりたい」というような考えも引き出していきましょう。

よりどころにする要素や仕組み

旋律（歌詞）、強弱

学習の内容

ポイントや教師の働きかけ

STEP 1 教科書の楽譜を見ながら歌う

♪全員で『ふじ山』を歌う

- 旋律がある程度歌えるようになったら次のSTEPへ進む。

STEP 2 旋律の動きを意識して歌う



旋律を指でなぞりながら、1番を歌ってみましょう。

♪旋律を指でなぞりながら1番を歌う



指でなぞりながら歌って、何か気付いたことはありますか？

それぞれの段(4小節のまとまり)の旋律が全部違っていた。

3段目の途中からだんだん音が上がっていった。

- 旋律の動きを指で正確になぞれているかを丁寧に見る。

- 子どもの気付きが少ない場合は、もう一度指でなぞる活動をするとうよい。

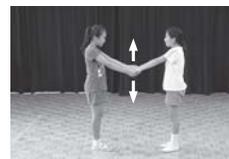
4段目の最後は少しずつ音が下がっていった。

「ふじは」のところは音が高くなっていた。



今度は2人組になって、音の高さに合わせて手を上下させながら歌ってみましょう。2人で最初のソの音の高さを決めておきましょう。

♪2人組で歌う



手を上下させながら歌う



- 手の動きだけでは足りずに、膝を曲げたり、背伸びをしたりする組もあると思われる。そのような動きも認めるようにする。

STEP 3 一番力強く歌いたところを考える



『ふじ山』の歌の中で、一番力強く歌いたところはどこかな。先生が1番を歌うので、自分が「一番力強く歌いたい」というところになったら、その場で拍手をしましょう。

♪先生が1番を歌い、子ども達は拍手をする



自分が一番力強く歌いたところを選んだと思うんだけど、その理由を教えてください。

旋律の音が一番高くなっているから。

「ふじは日本一の山」って歌っているから。

旋律の音がだんだん上がってきて、山の一番てっぺんになって、その後にだんだんと下りていくから。



旋律の上がり下がりや一番力強く歌いたところを意識して歌いましょう。

♪全員で歌う

- ピンポイントで拍手をする子もいれば、徐々に拍手をする子もいる。その様子を教師は歌いながら観察する。
- 教師が歌わずに範唱CDなどを使用してもよい。
- 一番力強く歌いたところの答えは1つではない。一人一人の考えを丁寧に聞き、「自分なりの考え」を大切にさせたい。根拠が歌詞にあるのか、要素にあるのかも確認するとよい。